

## 目次

会長あいさつ・・・・・・・・・・	1	について・・・・・・・・・・	3
第32回大会をお受けするにあっ		大会プログラム・・・・・・・・	4
て・・・・・・・・・・	2	事務局からのお知らせ	8
大会への参加方法及びスケジュール			

---

### ■会長あいさつ

日中社会学会第32回大会開催にあたって

会長 南裕子 (一橋大学)

本原稿を書いております10月下旬現在、コロナウイルスによる感染症の拡大は依然として予断を許さない状況にあります。まずは、会員の皆様とご家族のご健康をお祈り申し上げます。

日中社会学会も6月の対面での開催の延期を早々に決め、その後、開催方法を模索しておりました。当初、開催校をお願いしておりました会津大学には、オンラインでの開催をお引き受けいただき、11月21日(土)に開催の運びとなりました。開催校の池本淳一大会実行委員長には、新たな試みゆえのご苦労もおかけすることになりました。改めて御礼を申し上げます。また、大会に関係する理事の皆様には、見事な分業と協業をしてくださり、報告の募集、プログラム作成、報告要旨集など、ここまでのところ大変順調に準備が進んでおりますことに、心から感謝いたしております。

今号のニューズレターは大会直前号

として、大会プログラムが掲載されています。近年の傾向として、研究分野の広がりを感じておりましたが、今大会は、時間軸、空間軸で見てもより一層多彩になりました。また、中日社会学会の先生方にもご参加いただけますことを大変嬉しく思っております。

年に1回の日中社会学会の大会は、個人的には、自身の中国研究を相対化し、また今一度、中国社会への幅広い理解を得ることのできる貴重な機会となっています。そして学会理事という立場からは、例えば、村落や家族、環境といった専門学会もある中での本学会の存在意義も考えることとなります。

実は、当初予定されていた6月の大会では、故中村則弘先生によるミニシンポジウムが企画されておりました。仮のタイトルですが、「社会学と中国研究—今、なぜ中国研究か?—」というものです。今回は、自由報告のみの形での大会開催となりましたが、この中村先生からの宿題は、我々会員一人一人が今一度問い直す必要のある問いであると思います。今後の本学会の研究活動の中で、このテーマに正面から向き合う場をつくりたいと考えております。

大会がオンラインになったことに伴

い、たとえ短時間でも参加できるというメリットがあるかと思えます。ぜひこの機会に、多くの会員の皆様にご参加いただきたく存じます。現地調査を積み重ねた中からの中国社会理解とともに、そこからさらに現代社会のありようについて思索を深める研究者集団ならではの議論が、本大会で展開されることを期待いたします。画面越しではありますが、皆様とお目にかかれることを楽しみにしております。

---

## ■第 32 回大会をお受けするにあたって

---

大会実行委員長 池本 淳一

みなさまお待たせしました。11月21日(土)、オンラインにて第32回大会がよいよ開催されます。ご承知の通り、もともとこの第32回大会は6月13日・14日の両日、会津大学で開催予定でした。

しかし2月末頃から東京や京都以外にもコロナ感染者が出始め、3月初旬には大学でもサークル活動や学外者の施設利用の自粛が行われるなど、だんだんと緊迫した雰囲気は漂い始めました。日に日に悪化する状況を鑑み、3月19日以降、開催延期に関する話し合いが積み重ねられました。そして自由報告エントリーが開始される予定だった3月30日の二日前の、3月28日に学会大会を秋以降に延期する旨、メーリングリストにて通達させていただくこととなりました。その後、8月末にオンライン開催が決定され、現在まで

鋭意準備を進めております。

幸いこの会津大学は1993年開学の、日本で初めてとなるコンピュータ専門の大学であり、学生もみなコンピュータ理工学を学んでいます。学生らのサポートがあれば、技術面での心配は少ないと思います。

しかし運用面、制度面での不安はつきません。当初、大会理事の間では、オンラインのため発表者が集まらないのではないか、と懸念しておりましたが、幸いにも、最終的には例年なみの発表者を得ることが出来ました。しかし一日のみの大会日程となったため、それら自由報告を3会場(3アドレス)に分かれて並行して行い、さらに時間のロスがほとんど許されないという、大変難しいスケジュールとなってしまいました。発表者・参加者のみなさまには、事前にZOOM等の操作に慣れていただいたうえで、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

また今回はシンポジウムは開催できませんでしたが、懇親会はオンラインで行うこととなりました。初めにメイン会場にログインしていただき、その後、3会場に分かれてご歓談していただけるよう、準備を進めています。またZOOMには小グループに分かれて話ができる機能も付いておりますので、こちらも活用して、じっくりと研究交流する機会も設けようと考えております。

それでは、本年は少タイレギュラーな形での開催となりますが、みなさまふるってご参加お願いいたします。

---

## ■大会への参加方法及びスケジュールについて

---

大会実行委員長 池本 淳一

・今大会はすべて ZOOM のミーティンググループでの開催となります。

・自由報告は3会場で並行して開催。ZOOM の招待状（zoom のミーティンググループのアドレスが記載されたものです）も会場 A、会場 B、会場 Cそれぞれ別々に発行されます。当日はご希望の会場の招待状から、各会場にオンラインしてください。

・開会式、懇親会などの全体行事は、すべて会場 Aにておこなわれます。

・**ZOOM の招待状は、大会前日に学会のメーリングリストにて配布**いたします。またセキュリティ保持のため、招待状を学会員以外の方に通知するのは禁止させていただきます。

・学会員以外の方で本大会に参加希望の方は、大会実行委員長の池本までメールをお送りください。個別対応させていただきます。

メール送信先 池本淳一

**jikemoto@u-aizu.ac.jp**

・学会員あるいは許可を得た非学会員の本人確認のため、**ZOOM では、本名での参加をお願いいたします。**（名前は画面下のアイコン「参加者」をクリックし、画面右に表示される参加者の一覧の中の自分にカーソルを合わせて「詳細」→「名前の変更」で変更してください。）

・本大会は非常にタイトなスケジュールで行われます。自由報告は発表 20

分、質疑応答 10 分の合計 30 分、**原則的に延長は行われず、発表・質疑応答の途中でであっても 30 分で終了**させていただきます。機材トラブル、通信状況によって発表がスムーズにいかない場合も想定されますので、発表者の方々には十分な ZOOM の操作法の練習及び余裕をもった発表をお願いいたします。

# 日中社会学会第 32 回大会プログラム

◇開催日時

**2020 年 11 月 21 日（土曜日） 12:00～18:00** ZOOM 開催

◇全体日程

**12:00～** 入場開始

**12:10～12:30** 開会式 会場 A1

司会:中村圭先生

- 1、会長、南裕子先生挨拶
- 2、南京大学朱安新先生、中日社会学会の参加者を代表して挨拶
- 3、大会委員長池本淳一先生挨拶

**12:40～18:00** 自由報告 【会場の URL（ZOOM の招待状）は、大会前日にメンバーリストで会員に告知する。】

**18:15～20 : 00** オンライン懇親会 （まずは会場 1 にご参集ください）

会場 1、懇親会、会長、大会開催責任者、来賓の挨拶など

後半：自由トーク（ご自由に往来ください）

会場 1、メインフロア、フリートーク

会場 2、お互い研究についてのお悩みを交換する小部屋

会場 3、献杯・中村則弘先生の思い出を語る小部屋

## ◇自由報告：会場 A

### (1) セッション1 (会場：A1／時間：12：40～14：10)

司会：鄭南（吉林大学）

1. 張申童（名古屋大学人文学研究科）「中国系新移民の社会空間の構築について—名古屋春節祭を中心に—」
2. 劉コウ（名古屋大学人文学研究科）「戦後日本における『引揚者』の法的主体の形成について」
3. 浅野慎一（神戸大学）「中国残留日本人孤児にみる歴史問題の和解と市民運動」

### (2) セッション2 (会場：A2／時間：14:20～15:50)

司会：桜井義秀（北海道大学）

1. 趙夢盈（大阪大学人間科学研究科）「日本における仏教寺院、これからの行方—台湾仏教との比較から見—」
2. 李行健（北海道大学文学院）「西安市の仏教寺院をめぐる空間の生産と消滅—政教関係を中心に—」
3. シャザディグリ シャウティ（青山学院大学）「中国新疆ウイグル自治区サードエイジャーの規範意識とその構造」

### (3) セッション3 (会場：A3／時間：16:00～18:00)

司会：佐藤千歳（北海商科大学）

1. 周筱（筑波大学人文社会科学研究科）「『幼女買春罪』をめぐる存廃論争における『幼女』のゆくえ—『貴州事件』の司法手続きにおける法学者とマスメディアの言説を中心に—」
2. 山崎哲（一橋大学大学院社会学研究科）「NHK が伝えた中国帰国者三世—「帰国」の意味をめぐる—」
3. 翁康健（北海道大学大学院）「タイ社会における華人宗教の動態」
4. 鄭南（吉林大学）「長崎中華街の発展と社会組織の変容—地域の共同性から公共性へ—」

## ◇自由報告：会場 B

(4) セッション4 (会場：B1／時間：12:40～14:10)

司会：朱安新（南京大学）

1. 包敏（東京医科歯科大学教養部）「ポストコロナ時代における中国高齢化対策の展望」
2. 楊映雪（東京大学教育学研究科）「高齢社会における世代間交流と社区づくりについて：日中比較を中心に」
3. 孔擎噉・楊非凡（東京農工大学大学院）「農村部と都市部における高齢者の生活満足度及び影響要因に関する比較研究 —中国7省の調査に基づく—」

(5) セッション5 (会場：B2／時間：14:20～15:50) English session

司会：伍嘉誠（北海道大学）

1. CHEN CHUANGBIN（陳創斌）（東京農工大学）「The food safety problem of Waste Cooking Oil issue in China: based on the relevant 205 criminal judgements」
2. Kenichi Ishii（石井健一）（文教大学情報学部）「The novel coronavirus epidemic and people's trust in information」
3. Xiaoyin Wang（王晓音）（慶應義塾大学大学院）「Highly Skilled Chinese in Japan: Transnational Networks and Global Mobility」

(6) セッション6 (会場：B3／時間：16:00～17:30)

司会：浜本篤史（早稲田大学）

1. 張思宇（関西学院大学社会学研究科）「日中における環境意識の比較」
2. 斯日古楞（新潟大学）「内モンゴル北東部地域における『半農半牧』の実態について—ホルソテイ（呼嚕斯泰）ガチャ（嘎查）の農耕化を事例に一」
3. 木下光弘（中央大学）「内モンゴルの地下資源開発に関する調査報告」

◇自由報告：会場C

(7) セッション7 (会場：C1／時間：12:40～14:10)

司会：松谷実のり（追手門学院大学）

1. 周楊（上海建橋学院外国語学院）「日本企業の管理制度と女性育成」

2. 郭笑蕾（慶應義塾大学社会学研究科）「日中国際結婚女性の定住意識と移動経験に関する考察—Social Anchoring 概念を手がかりにして—」
3. 楊芳溟（関西学院大学社会学研究科）「在日中国人の社会的適応の研究にめぐってスキーマ理論を用いる可能性の検討」

(8) セッション8（会場：C2／時間：14:20～15:50）

司会：李曉東（島根県立大学）

1. 吳桐（京都大学教育学研究科）「『日本モダン』の構築」
2. 王星星（早稲田大学社会科学部研究科）「中国における前近代性の『ソーシャル・ガバナンス』—天津広仁堂を巡る可能性についての考察—」
3. 華京碩（龍谷大学社会学研究科）「満州における日本の軍政対立と新聞人に関する研究 —営口『満州日報』の日本人新聞人をめぐって—」

(9) セッション9（会場：C3／時間：16:00～18:00）

司会：唐燕霞（愛知大学）

1. LI SUHAN（李谿焄）（早稲田大学人間科学研究科）「農村労働力移動の日中比較」
2. 丁名揚・野上亮（筑波大学大学院）「居場所という支援教育の実践—中国『素質教育』における学習者同士での支え合いを通じた学力保障—」
3. 川村潤子（名古屋大学人文学研究科）「農民工子弟学校の果たした役割—H市の民工子弟学校の終焉を迎えるにあたって—」
4. 華金玲（慶應義塾大学）「中国5G産業政策の戦略的位置づけとその形成要因」

## ■事務局からのお知らせ

### ■事務局からのお願い

#### □メルマガ届いていますか？

本学会では、google グループによるメーリングリストによる広報を行っています。事務局へご登録いただいたメールアドレスへ、不定期に「日中社会学会メールマガジン」が配信されます。メールマガジンが届いていない方や、未登録の方、また、メールアドレスに変更のあった場合は、事務局までお知らせください。

#### □情報をお寄せください

会員の皆様で、出版物のご案内や研究会・シンポジウムの開催のご案内などがございましたら、事務局まで情報をお寄せください。

#### □会費納入のお願い

学会活動は皆さまからの会費で支えられております。2020年度までの会費納入をお願いいたします。一般会員 6000 円、学生会員 4000 円です。

日中社会学会・郵便口座  
口座記号番号：00140-9-161801  
加入者名：日中社会学会

\*インターネットバンキング等、銀行からのお振込みの場合は、下記になります。

店名：〇一九店 店番：019  
口座番号：0161801

\*海外からは paypal での納入も可能になりました。詳細につきましては、事務局までお問い合わせください。

#### □異動、住所変更の際はご一報を！

異動、住所変更のあった方は、新しいご所属、メールアドレス、郵便物送付先等の情報を事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。

## 日中社会学会ニューズレター No.84

編集：坂部晶子（名古屋大学）

発行：日中社会学会事務局  
〒186-8601 東京都国立市中2-1  
一橋大学・南裕子研究室  
事務局長：中村圭（成城大学）

[info@japan-china-sociology.org](mailto:info@japan-china-sociology.org)

○日中社会学会・公式 HP  
<http://www.japan-china-sociology.org/>

発行日：2020年10月